

癌化学療法輸液約束処方 多発性骨髄腫:MM 3

癌種 再発・難治性多発性骨髄腫
 レジメン名 MM 3 エムプリシティ

薬品名(商品名)	一般名	略号	標準投与量	投与経路	投与日	1コース期間
レブラミド	レナリドミド水和物		25mg/day	内服	DAY1~21(1週間休薬)	28日間
デカドロン	デキサメサゾン	DTX	28mg/day	内服	DAY 1 .8. 15 .22(投与開始3時間前)	
エムプリシティ	エロツズマブ		10mg/kg	div	1、2コース目:DAY 1,8,15,22 3コース目以降:DAY 1,15	

【1~2コース目:毎週、3コース目以降:隔週 静注

☆デカドロン28mg:投与3時間前までに内服

- ① NS 100ml + デキサート8mg + ポララミン1A + ファモチジン1V / 全開
- ② NS 100ml / 30分 (カロナール服用)
- ③ NS 230~250ml + エムプリシティ mg / 投与時間参照 ☆フィルターあり
- ④ NS 50ml / 全開

<投与速度>

	投与開始	投与速度(mL/hr)		
		0~30分	30~60分	60分以降
1コース目	初回	30	60	120
	2回目	180	240	
	3、4回目	300		
2コース目以降		300		

- <調整方法>
- ① 300mg/注射水13ml,400mg/注射水17ml で溶解(25mg/mlとなる)する。
 - ② バイアルをゆっくり回転させて溶解。激しく振とうしない。
 - ③ 完全に溶解後5~10分放置。溶解液は無職~微黄色の透明~乳白光。微粒子、変色が認められた場合は使用しない。
 - ④ 必要量を230mlの生食または 5%Tzに希釈する。 ☆体重別投与量一覧参照

- <備考>
- ① 本レジメンは、少なくとも1つの標準治療が無効または再発した患者が対象。
 - ② infusion reaction 発現時は、投与速度を30ml/hrとする。認容性確認後、30分毎に30ml/hrずつ上げる。
Grade3以上のinfusion reaction 発現時は投与中止。
 - ③ 投与時は0.22ミクロン以下のインラインフィルターを用いる。
 - ④ その他の有害事象:感染症、リンパ球減少、間質性肺炎など
 - ⑤ 添付文書の改訂により投与速度の上限を緩和(R1.12.13 Dr尾崎より指示あり)

R1.12.14改訂